

# 青森県

定数：3名

立候補者数：3名



氏名 千葉 直  
氏名ふりがな ちば すなお  
都道府県士会 青森県  
年齢 43  
勤務先名称 青森新都市病院

### 日本理学療法協会活動歴

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

令和3年度～ 一般社団法人青森県理学療法士会 理事  
令和7年度～ 一般社団法人青森県理学療法士会 副会長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

私はこれまで青森県理学療法士会の理事として3期にわたり、教育・学術事業や臨床実習指導者講習会の運営に携わってまいりました。これらの事業を通じ、協会の方針や制度が、会員の専門性の向上や業務への自信、働きがいへと、より実感をもって結びつく余地があると感じてきました。また、地方の現場で積み重ねられている実践や課題を全国的な議論に反映させることが、職能全体の質向上に直結すると考えるようになりました。

現在、理学療法士を取り巻く環境は、職域の拡大や養成数の増加、働き方の多様化、若手会員の増加など、大きな転換期にあります。こうした変化の中で、日本理学療法士協会には統一した理念や方向性を示す役割と同時に、地域の実情を踏まえた柔軟な制度設計がこれまで以上に求められていると感じています。その実現には、全国と地方の双方の状況を理解し、現場の視点を踏まえた意見をつなぐ役割が不可欠です。

私は、これまでの実務経験を生かし、

- ・地方における課題や取り組みを整理し、全国の議論へ的確に伝えること
- ・全国の方針や施策を、地方の現場で活用しやすい形で共有すること
- ・教育や制度の充実を通じて、職能全体の質向上に寄与すること

に取り組みたいと考えております。

先人の築いてこられた協会の理念を大切にしながら、日本理学療法士協会と青森県理学療法士会が連携し、ともに職能の課題解決に取り組める関係づくりに尽力してまいります。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



氏名 米田 良平  
氏名ふりがな よねた りょうへい  
都道府県士会 青森県  
年齢 44  
勤務先名称 平内中央病院

#### 日本理学療法協会活動歴

2016年～ 代議員  
2024年 士会支援事業運営部会員

#### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2013年～ 青森県理学療法士会 理事  
2017年～ 青森県理学療法士会 副会長  
2023年～ 青森県理学療法士会 会長

#### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

#### 立候補の趣旨

全国的に入会率の低下や休会、退会者の増加が喫緊の課題となっており、職能団体も時代に即した運営が求められています。その中でも特に、多様な価値観や働き方の中で会員が主体的に関われるキャリア形成支援は重要と考えます。  
これまでも代議員や士会役員を務めさせていただきましたが、引き続き取り組んで参りたいと考えております。会員にとって可能性を感じ見出せる協会、士会となるよう努めて参ります。



氏名 小野寺 遊

氏名ふりがな おのでらゆう

都道府県士会 青森県

年齢 48

勤務先名称 メディカルコート八戸西病院

### 日本理学療法協会活動歴

令和2年～令和4年	(公社) 日本理学療法士協会	代議員
令和4年～令和6年	(公社) 日本理学療法士協会	代議員
令和6年～令和8年	(公社) 日本理学療法士協会	代議員

### 都道府県理学療法士(協)会活動歴

平成25年～平成26年	(一社) 青森県理学療法士会	職能局 部員	委員長
	地域包括ケアシステム推進委員会	委員長	
平成27年～平成29年	(一社) 青森県理学療法士会	理事	職能局担当
平成29年～平成31年	(一社) 青森県理学療法士会	副会長	職能局長
平成31年～令和3年	(一社) 青森県理学療法士会	副会長	職能局長
令和3年～令和5年	(一社) 青森県理学療法士会	副会長	職能局長
令和5年～令和7年	(一社) 青森県理学療法士会	副会長	職能局長
令和7年～	(一社) 青森県理学療法士会	副会長	

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

これまで県士会では、2025年問題への対応や地域包括ケアシステムの構築を目指し、理学療法士として地域社会に貢献する方法を模索し実践してきました。今後、2025年以降は、理学療法士の強みをさらに明確にし、市町村や国政レベルに対して「地域で何が出来るか」を分かりやすく伝えるためのユーザーマニュアルが必要だと考えています。2020年には理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則が一部改正され、臨床参加型実習制度も徐々に普及しています。その結果、新たに理学療法士が増えている一方で、質の低下も懸念されています。昨今、国政で理学療法士の賃上げや地位向上が議論されていますが、国民への貢献を支える高い専門性の維持は欠かせません。そのため、日本理学療法士協会が中心となって取り組むべき役割がますます重要です。今後も理学療法士の可能性を追求し、新たな分野への挑戦を続けていきたいと考えています。